

2024 年度朝日大学
医科歯科医療センター
研修プログラム

2024年度朝日大学医科歯科医療センター研修プログラム

1. プログラムの名称

朝日大学医科歯科医療センター研修プログラム

2. プログラムの特色

- (1) 研修開始期の4月には、患者診療のための知識、技能、態度（後記する臨床スキル確認・修得項目（①～⑮））の修得度を確認し、未熟者には修得するまで繰り返し練習させる。また、身だしなみについても必要であれば改善させる。
- (2) 研修歯科医専用の技工室や診療用チェアを設置した演習室などが時間外開放され、スキルアップのための練習ができる。
- (3) 歯科専門各分野の指導歯科医が各自分野の「診療のコツ」や様々な症例提示等をセミナー形式で提示する。
- (4) 歯科医師臨床研修プログラムにおける成績優秀者は、希望により後期研修（1年間・定員制）に進むことができる。
- (5) 歯科麻酔専門医による歯科診療時の併発症や偶発症に対する基本的な対応法や安全で快適な歯科治療を提供するための全身管理研修を1週間単位で実施する。
- (6) 歯科医学専門医等を目指す研修歯科医には、臨床経験豊富で高度なスキルを持つ指導歯科医（歯科各分野の専門医・ACE等）の指導を受けることができる。
- (7) 臨床能力の質向上及び臨床研修内容の補完として、医科歯科医療センターが主催する臨床研修会イブニングセミナーや各診療科が開催する症例報告会、治療計画検討会、勉強会などへ参加することができる。
- (8) 向上心があり、臨床スキルの高い研修歯科医であると認められた者には、指導歯科医が受け持っている患者の高度先進医療等を経験できる。
- (9) 医科歯科医療センターに加えて近隣の開業歯科医院（協力型（Ⅱ）臨床研修施設）が実施している在宅・訪問歯科診療を体験する。
- (10) 大学附属病院である朝日大学病院（協力型（Ⅱ）臨床研修施設）での病棟研修に加えて歯科医師に必要な医科歯科連携や多職種連携について1週間単位で3クール（1クール・月～土の6日間）体験する。
- (11) 地域連携の一環として、近隣の幼稚園、小・中学校等で歯科口腔健診を実践する。
（ただし、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては中止する。）
- (12) 明海大学、朝日大学の両歯学部生涯研修部が実施している良質で先進的、高レベルの生涯研修プログラムの一部（講義）を無料で受講できる。また、高度で先進的な専門的医療を提供している外部講師の実践症例を中心とした講演を聴講できる。

- (13) 臨床研修の成績・研修態度が良好な者については、11月から、朝日大学歯学部大学院への進学あるいは専門医取得の足がかりとして、また、本医科歯科医療センター独自の後期研修（2年次研修）や修練医（非常勤勤務）を目指す準備として、研修歯科医自身が希望する診療科で3月まで研修を行うことができる。
- (14) AHA（American Heart Association）HeartCode BLS for RQI プログラムを受講し、BLS プロバイダーカードを取得することを臨床研修の修了要件の一つとしている。
- (15) 外部有識者によって医科歯科医療センターの臨床研修プログラムの評価を受ける。

3. 歯科医師臨床研修の目標

(1) ねらい

- 1) 歯科医師としてふさわしい態度を身に付け、患者及び家族とのよりよい人間関係を確立する。
- 2) 全人的な視点から得られた医療情報を理解し、それに基づいた総合治療計画を立案する。
- 3) 歯科疾患と障害の予防及び治療における基本的技能を身につける。
- 4) 一般的によく遭遇する疾患の応急処置と頻度の高い歯科治療処置を確実に実施する。
- 5) 歯科診療時の全身的偶発症・事故に適切に対応する。
- 6) 自ら行った処置の経過を観察、評価し、診断と治療に常にフィードバックする態度・習慣を身につける。
- 7) 専門的知識や高度先進的歯科医療に目を向け、生涯研修への動機付けをする。
- 8) 歯科医師としての社会的役割を認識し、実践する。

(2) 到達目標

到達目標は「歯科医師としての基本的価値観」、「資質・能力」、「基本的診療業務」の3つで構成され、基本的診療業務については、「基本的診療能力等」と「歯科医療に関連する連携と制度の理解等」に分類し、それぞれの構成各項目について具体的な到達目標を示している。

4. 参加施設及び指導体制

(1) 管理型臨床研修施設

- ①施設名：朝日大学医科歯科医療センター
- ②管理者：藤原 周（歯科補綴科）
- ③研修管理委員長：北後 光信（歯周病科）
- ④プログラム責任者：岡 俊男（歯科補綴科）
- ⑤副プログラム責任者：瀧谷 佳晃（保存科）
岩堀 正俊（歯科補綴科）
安田 順一（障がい者歯科）

後藤 隆志 (歯科麻酔科)
服部 修磨 (矯正歯科)
羽田 詩子 (歯科補綴科)
若松 紀子 (小児歯科)
日下部 修介 (保存科)
長谷川 ユカ (口腔インプラント科)
森永 啓嗣 (歯周病科)
安村 真一 (歯科口腔外科)
西山 航 (口腔診断歯科放射線科)
澤田 季子 (歯科補綴科)
落合 隆永 (病理診断科)
横矢 隆二 (包括支援歯科医療部)

(2) 協力型 (Ⅱ) 臨床研修施設

1) 朝日大学病院

①研修実施責任者 : 笠井 唯克
②指導歯科医 : 岩崎 理浩
大橋 静江
谷口 裕重
長縄 鋼亮
渡辺 一弘
高橋 萌
鵜飼 哲
名知 ひかる
松下 貴裕

2) 赤坂歯科医院

①研修実施責任者 : 山口正義
②指導歯科医 : 山口正義

(3) 研修協力施設

1) 岐阜市保健所

①研修実施責任者 : 野村隆之
②研修歯科医の指導を行う者 : 野村隆之

(4) 指導体制

指導歯科医の直接指導を中心とする。

5. 研修期間及び研修内容

(1) 研修期間

1年間とする（2024年4月1日～2025年3月31日）

(2) 管理型臨床研修施設：朝日大学医科歯科医療センター

①研修期間 2024年4月1日～2025年3月31日の12カ月の内、協力型（Ⅱ）臨床研修施設での研修日程を除いた約11カ月

②研修内容

診療開始期（4月）には、歯科医籍登録及び保険医登録が完了するまで、各診療科で指導歯科医の持ち患者の見学・介助を行うとともに、後記する「臨床スキル確認15項目」の修得が確認できた者から順次、患者配当を行う。なお、診療体制は、4診療科（保存科、歯科補綴科、歯科口腔外科、歯周病科）での3週間ずつのローテイト方式と、一口腔一単位による総合診療方式を組み合わせた研修に、口腔診断放射線科、小児歯科、障がい者歯科、口腔インプラント科、矯正歯科、総合歯科、包括支援歯科医療部での輪番制および歯科麻酔科での1週間単位の研修を行いながら、基本的診療業務を反復実施することで、歯科医師としての基本的価値観を涵養し、歯科診療の資質・能力を高めるとともに社会的な役割を理解する。

(3) 協力型（Ⅱ）臨床研修施設

1) 朝日大学病院（病棟研修等）

①研修期間 18日間（1クール・月～土6日間を3クール）

②研修内容

- i. 入院患者の口腔ケア、口腔リハビリテーション、周術期口腔機能管理
- ii. 歯科で入院中の患者の歯科治療（介助・診療参加）
- iii. 歯科以外で入院中の患者の歯科治療（介助・診療参加）
- iv. 多職種連携（医師・看護師・薬剤師・放射線技師・臨床検査技師等）
- v. 全身管理に関する研修

2) 赤坂歯科医院（訪問歯科診療）

①研修期間 5日間

②研修内容 各日、研修歯科医2名が研修施設の指導歯科医に同行し、訪問歯科診療を体験する。

(4) 研修協力施設

1) 岐阜市保健所に属する保健センター（岐阜市中・南・北保健センター）

①研修期間 1日間

②研修内容 乳幼児歯科健康診査（10カ月、1歳6カ月、3歳）やフッ化物塗布を実施する。

6. 研修の評価法

(1) 歯科医師臨床研修の到達目標を達成するため研修歯科医1人当たりに必要な症例数を達成していること。

(2) 学修ポートフォリオ

1年間の研修期間を3期に分けて、各期で提出させた凝縮ポートフォリオをルーブリックにより評価する。

(3) 毎日の記録・一週間の振り返りシート（臨床研修歯科医手帳）の記載内容を評価する。

(4) 臨床スキルおよび課題レポートをルーブリックにより評価する。

(5) 同僚、先輩歯科医、指導歯科医、コ・デンタルスタッフ並びに患者による多面（360度）評価を行う。

(6) 症例報告・症例検討のプレゼンテーション及びスモールグループディスカッション(SGD)による課題解決策として提出したレポートをルーブリックにより評価する。

上記（1）の要件を満たした研修歯科医のうち、上記（2）～（6）の各種評価（原則的に各課題いずれも70%を合格基準とする）を参考にして、研修管理委員会において研修歯科医の評価と研修終了の可否を判断する。

7. 募集定員、募集方法及び採用の方法

(1) 募集定員

50名

(2) 募集方法及び採用の方法

1) 募集方法

公募とし、後記の「4) 提出書類 ①～⑤」、多肢選択試験、卒前の学修・学生生活態度、臨床実習時の学修ポートフォリオに加えて医科歯科医療センターの指導歯科医による面接等により選考を行う。また、歯科医師臨床研修マッチング協議会によるマッチングを利用し、採用決定する。

2) 対象者

①2024年4月1日以降に歯科医師免許を取得する者（取得予定者も含む）

②歯科医師臨床研修マッチング協議会のマッチングに参加する者

③選考試験日

第1回 2023年7月29日（土）

第2回 2023年8月20日（日）

*注) 朝日大学卒業生は5年生の臨床実習時に作成した学修ポートフォリオを持参すること
他大学卒業生は、学部学生時に作成した学修ポートフォリオが有れば持参すること

3) 選考会場

朝日大学

4) 提出書類

①願書（所定の様式を使用のこと）

②履歴書（所定の様式を使用のこと）

③卒業（見込）証明書（朝日大学在学学生及び卒業生は不要）

④成績証明書

⑤返信用封筒

(定型封筒 (長形 3 号 12×23.5cm) の表に返信先を記入し、84 円切手を貼付したもの)

5) 応募期間

2023 年 6 月 16 日 (金) ~2023 年 7 月 14 日 (金) (必着)

必ず郵送で応募のこと (持参した場合は受付できません)

問合せ先 〒501-0296 岐阜県瑞穂市穂積 1851 番地

朝日大学 歯学部事務部 医科歯科医療センター事務課

TEL 058-329-1112 (代表) / FAX 058-329-1137

8. 研修歯科医の処遇

- (1) 常勤又は非常勤の別 : 常勤
- (2) 基本手当 : 月額 142,000 円
- (3) 諸手当 : 通勤手当 月額上限 15,000 円
時間外手当 1,138 円 / 1 時間
- (4) 勤務時間 : 月曜~金曜 8:30 ~ 16:30 (休憩 1 時間)
土曜 8:30 ~ 12:30 (休憩 1 時間)
- (5) 休日 : 日祝祭日、年末年始休暇、夏季休暇等
- (6) 有給休暇 : 有 (10 日間) 上記の休日含まず
- (7) 時間外勤務 : 原則として無
- (8) 日・当直 : 無
- (9) 宿舍 : 無
- (10) 施設内の研修歯科医室 : 有
- (11) 公的医療保険 : 日本私立学校振興・共済事業団
- (12) 公的年金保険 : 日本私立学校振興・共済事業団
- (13) 労働者災害補償保険 : 有
- (14) 雇用保険 : 有
- (15) 健康診断 : 有 (朝日大学にて 4 月に実施する)
- (16) 医師賠償責任保険 (歯科医師) : 加入 (個人も強制加入)
- (17) その他研修に関する事項
 - ①AHA の BLS 研修は必修課題とする。
 - ②その他の各種の研修活動・学会活動は参加可能であるが、費用は個人負担で、届け出を要する。
 - ③初期研修の実施に必要な実習模型及び歯科用器具等は個人で準備する必要がある場合があります。

9. 具体的な研修目標

A. 【歯科医師としての基本的価値観 (プロフェッショナリズム)】

1) 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2) 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3) 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心をもって接する。

4) 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 【資質・能力】

1) 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2) 歯科医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。
- ⑤ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

3) 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題点について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。
- ④ 高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。

4) 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
- ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

5) コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

6) チーム医療の実践

医療従事者をはじめ患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。
- ② 多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ③ 医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。

7) 社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

- ① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
- ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その増進に貢献する。
- ⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

8) 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点に対応する能力を身につける。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解する。

9) 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。

- ② 同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌等を含む）を把握する。

C. 【基本的診療業務】

1. 基本的診療能力等

本項目はB. 【資質・能力】のうち 「2）歯科医療の質と安全の管理」「3）医学知識と問題対応能力」「4）診療技能と患者ケア」「5）コミュニケーション能力」に相当する具体的な到達目標を示す。

（1）【患者診療前の基本的診療能力】（独自項目）

【一般目標：GI0】

マネキン実習や相互実習によって、臨床で高頻度に遭遇する症例に対して、適切な歯科保健医療を提供するために必要な基本的診療スキルに関する知識、技能を確認するとともに修得する。

【到達目標：SB0s】

患者診療前に＜基本的診療スキル15項目＞を合格基準に到達するまで繰り返し練習する。また「その他の修得3項目＞については、確実に理解する。

1) 基本的診療スキルの確認・修得15項目 <症例数>16症例

- ① FMCの支台歯形成ができる（マネキン実習）
- ② メタルインレーの窩洞形成ができる（マネキン実習）
- ③ CRレジン修復ができる（マネキン実習）
- ④ ラバーダム防湿と歯内療法処置ができる（マネキン実習）
- ⑤ 口腔内診査（相互）ができる（相互実習）
- ⑥ X線（デンタル、パノラマ）撮影・読影ができる（マネキン・相互実習）
- ⑦ 口腔ケア（染め出し・ブラッシング指導）ができる（相互実習）
- ⑧ 口腔内写真撮影ができる（相互実習）
- ⑨ 歯周組織検査、除石ができる（相互実習）
- ⑩ 口腔内概形印象ができる（相互実習）
- ⑪ 半調節性咬合器を用いて咬合診断ができる（相互実習）
- ⑫ 小児の予防填塞ができる（マネキン実習）
- ⑬ 口腔粘膜細胞診ができる（相互実習）
- ⑭ 医療安全・感染防止策（相互実習）
 - a 手指消毒ができる
 - b 無菌処置消毒ができる
- ⑮ 浸潤麻酔ができる（相互実習）

2) その他の修得項目 <症例数>各項目1症例

① 接遇を理解する

＜研修内容＞外部講師によるセミナーを受講し、レポートを作成する。

② 開業を理解する

＜研修内容＞外部講師によるセミナーを受講し、レポートを作成する。

③ BLS を理解し、実践する。

＜研修内容＞AHA (American Heart Association) HeartCode BLS for RQI プログラムを受講し、BLS プロバイダーe カードを取得する。

(2) 基本的診察・検査・診断・治療計画

【一般目標：GIO】

患者の状態に配慮した適切な歯科保健医療を提供するための医療面接、基本的な診察、検査、診断、診療計画の立案に関する知識、技能、態度を身につける。

【到達目標：SB0s】 <症例数>①～⑥29 症例 (①～⑥各項目 5 症例、①～⑥一連実施 5 症例)

① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。

＜研修内容＞口腔診断放射線科や各診療科での初診時並びに再診時の医療面接

② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。

＜研修内容＞口腔内診察、頭頸部診察、各種検査の必要性の判断

③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。

＜研修内容＞エックス線検査、咬合検査、咀嚼能力検査、歯周組織検査の実施と検査結果の解釈

④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。

＜研修内容＞検査結果に基づいた診断

⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。

＜研修内容＞診療方針の立案に関するカンファレンス参加、プロトコール作成

⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。

＜研修内容＞患者への病状説明、インフォームドコンセント、同意書の取得

⑦ {POS、EBM に基づいた医療} を説明する。 (独自項目)

＜研修内容＞POS・EBM についてレポートを作成する。 <症例数>各 1 症例 (レポート)

(3) 基本的臨床技能等

【一般目標：GIO】

日常臨床で高頻度に遭遇する歯科疾患や機能障害を有する患者に対して、適切に対処できるよう基本

的な技能を修得する。

【到達目標：SB0s】

- ① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導及び基本的な手技を実践する。
 - ＜研修内容＞歯周検査およびPCRを取得し、ブラッシング指導を実施する。また、SCやPMTCを実施する。　＜症例数＞10症例
- ② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。
 - a. 歯の硬組織疾患
 - ＜研修内容＞知覚過敏、エナメル質形成不全、歯の変色、根部う蝕などの治療と管理
 - ＜症例数＞5症例
 - b. 歯髄疾患
 - ＜研修内容＞歯内療法処置（抜髄、感染根管処置、根充等）の実施と管理
 - ＜症例数＞5症例
 - c. 歯周病
 - ＜研修内容＞歯周基本検査・歯周治療・SRPの実施と管理
 - ＜症例数＞10症例
 - d. 口腔外科疾患
 - ＜研修内容＞抜歯、口腔粘膜疾患の処置、嚢胞除去等の実施と管理
 - ＜症例数＞7症例
 - e. 歯質・歯の欠損
 - i 歯質欠損
 - ＜研修内容＞歯冠修復、歯冠補綴の実施と管理　　＜症例数＞：5症例
 - ii 歯の欠損
 - ＜研修内容＞BrやPD・FDによる補綴の実施と管理　　＜症例数＞：2症例
 - f. 口腔機能の発達不全・低下
 - ＜研修内容＞摂食・嚥下・発音障害やオーラルフレイルなどの治療と管理　＜症例数＞1症例
 - g. 上記の診療項目について多面（360度）評価を受ける（独自項目）
 - ＜研修内容＞患者とコ・デンタルスタッフ（研修歯科医含む）に評価してもらう。
 - ＜症例数＞2症例
 - h. 技工物の作製等（独自項目）
 - ＜研修内容＞自身配当患者のTEC、研究用模型、個人トレーなどの作製　　＜症例数＞1症例
- ③ 基本的な応急処置を実践する。
 - ＜研修内容＞疼痛、義歯破損、補綴物の脱離、歯・口腔顎顔面の外傷等の応急処置を実践する
 - ＜症例数＞5症例

④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。

＜研修内容＞生体情報モニターからバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。

＜症例数＞1 症例

⑤ 診療に関する記録や文書を作成する。

＜研修内容＞診療録 ＜症例数＞7 症例

＜研修内容＞処方箋 ＜症例数＞2 症例

＜研修内容＞技工指示書 ＜症例数＞2 症例

＜研修内容＞その他（歯菅、補菅、手術同意書など） ＜症例数＞2 症例

⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。

＜研修内容＞医療安全対策の実践 ＜症例数＞5 症例

＜研修内容＞院内感染対策の実践 ＜症例数＞5 症例

＜研修内容＞医科歯科医療センターにおけるインシデント・アクシデントレポートについて毎月1回のスタッフ・ミーティングに参加して理解する。 ＜症例数＞12回

（4）患者管理

【一般目標：GIO】

全身状態に配慮が必要な患者に対して歯科治療を行う際の患者管理に関する知識、技能、態度を修得する。

【到達目標：SB0s】

① 歯科治療上問題となる全身的な疾患・服用薬剤等について説明する。 ＜症例数＞11 症例

＜研修内容＞高血圧症、狭心症、心筋梗塞、不整脈、ペースメーカー植込患者、慢性肝炎、出血傾向のある患者、糖尿病、てんかん、認知症、妊婦について SGD

・スモールグループディスカッションを行い、レポートを作成する。

（新型コロナウイルスの感染状況によっては、SGD を中止することがある）

② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治医等と診療情報を共有する。

＜研修内容＞対診書、紹介状、診療情報提供書等を作成する。 ＜症例数＞1 症例

③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。

＜研修内容＞心拍および血圧の状況に配慮が必要な患者に対して、生体情報モニターを正しく装着し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う ＜症例数＞2 症例

④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。

＜研修内容＞血管迷走神経反射、過換気症候群、アナフィラキシーを説明し、対応法を実践する。

＜症例数＞各1 症例

⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する（朝日大学病院）。

<研修内容>入院患者の口腔ケア、口腔リハビリテーション、周術期口腔機能管理を実践する。

<症例数>1 症例

<研修内容>手術室での歯科口腔外科・医科系症例の全身麻酔処置等及び手術を見学する

<症例数>1 症例

<研修内容>多職種連携（医師・看護師・薬剤師・放射線技師・臨床検査技師等）に参加する。 <

症例数>1 症例

<研修内容>入院患者の歯科治療を体験する。 <症例数>1 症例

⑥ 安全で快適な歯科治療を提供するために、精神鎮静法及び全身麻酔法を実践する（歯科麻酔科）。（独自項目）

i) 病歴聴取（患者研修） <症例数>1 症例

ii) バイタルサインの評価（患者研修） <症例数>1 症例

iii) 緊急時に必要な手技

a 静脈確保（マネキン実習・患者研修） <症例数>1 症例

b 気管挿管（マネキン実習・患者研修） <症例数>1 症例

iv) 静脈内鎮静法の周術期管理（患者研修） <症例数>1 症例

a 術前評価（病歴聴取、静脈内鎮静法の説明）

b 術中管理（薬物の投与方法、気道確保など）

c 術後管理（帰宅判定）

v) 全身麻酔法（患者研修） <症例数>1 症例

a 術前評価（病歴聴取、血液検査、生理機能検査、胸部X線検査）

b 術中管理（薬物の投与方法、気道確保など）

c 術後管理（術後診察、帰宅判定など）

vi) ACLS の概念を説明する。 <症例数>1 症例（レポート）

（5）患者の状態に応じた歯科医療の提供

【一般目標：GI0】

患者の状態やライフステージに応じた安心・安全な歯科治療を適切に実践する。

【到達目標：SB0s】

① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。

② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する（病棟研修）。

③ 在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。

<研修内容>在宅患者を訪問し、全身状態を確認しながら歯科診療を行う。

<症例数> 5 症例

④ 障がいを持つ患者への対応を実践する。

＜研修内容＞身体的または知的障がいを持つ患者の歯科診療に必要な対応を行う。

＜症例数＞1 症例

（6）経過評価管理（独自項目）

【一般目標：GI0】

自ら行った治療の経過を観察評価するために、診断および治療に対するフィードバックに必要な知識、態度及び技能を習得する。

【到達目標：SB0s】

① リコールシステムの重要性を理解する。 ＜症例数＞1 症例（レポート）

② 治療の経過を評価し、予後を推測する。

＜研修内容＞担当患者の症例を10月～12月（＜症例数＞1 症例）及び3月に開催する報告会で発表（＜症例数＞1 症例）し、3月の発表内容の事後抄録を提出する ＜症例数＞1 症例

（7）予防・治療の情報収集（独自項目）

【一般目標：GI0】

高度で先進的な医療を行うために必要な専門的知識や技術を理解する。

【到達目標：SB0s】

① 歯科の高度な専門的医療を学び、理解する。

＜研修内容＞高度な専門的医療を実践している外部講師による講演を受講し、レポートを作成する

【講演のテーマ】＜症例数＞14 症例（レポート）

i 口腔ケア関連

ii 歯内療法関連

iii インプラントと歯周病関連

iv 歯冠補綴と歯周病関連

v 歯科補綴（総義歯）関連

vi 歯科補綴（Cr－Br）と根面う蝕、歯周病関連

vii 歯科補綴（局部床）関連

viii デンタルCT（読影と診断）

ix 歯科麻酔関連

② 専門的な医療を体験する。

＜研修内容＞指導歯科医が担当している患者の診療（インプラント、CAD/CAM冠、マイクロスコープを用いた歯内・歯周治療、細胞診標本の作製・診断など）を体験する

＜症例数＞いずれかを1 症例・

II. 歯科医療に関する連携と制度の理解

本項目はB. 【資質・能力】のうち「6）チーム医療の実践」「7）社会における歯科医療の実践」に相当する具体的な到達目標を示す。

（1）歯科専門職間の連携

【一般目標：GI0】

歯科保健医療を行うにあたって、歯科衛生士、歯科技工士等の歯科専門職の役割を理解し、連携を図る。

【到達目標：SB0s】

- ① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。＜症例数＞2症例
- ② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。＜症例数＞2症例
- ③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。＜症例数＞1症例（レポート）

（2）多職種連携、地域医療

【一般目標：GI0】

地域包括ケアシステムにおける多職種連携による質の高い歯科保健医療を提供するための歯科医の役割に関する知識・技能・態度を修得する。

【到達目標：SB0s】

- ① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。
＜研修内容＞講義を受講し、レポートを作成する。　＜症例数＞1症例（レポート）
- ② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。
＜研修内容＞講義を受講し、レポートを作製する。　＜症例数＞1症例（レポート）
- ③ がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。（朝日大学病院）
 - a がん患者等の周術期等口腔機能管理の目的及び各専門職の役割を説明する。
＜症例数＞1症例（レポート）
 - b 多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。　＜症例数＞1症例
- ④ 歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。（朝日大学病院）
 - a 多職種連携の目的及び各専門職の役割を理解する。　＜症例数＞1症例（レポート）
 - b 多職種チーム医療に参加し、関係者と連携する。　＜症例数＞1症例

(3) 地域保健

【一般目標：GI0】

歯科医師の地域公衆衛生に果たす役割を理解し、地域歯科保健活動に参画するための知識、技能、態度を修得する。

【到達目標：SB0s】

① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。

＜研修内容＞岐阜市保健所・中保健センター長による講義を受講し、レポートを作成する。

＜症例数＞1 症例（レポート）

② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。

＜研修内容＞岐阜市保健所・中保健センター長による講義を受講し、レポートを作成する。

＜症例数＞1 症例（レポート）

③ 保健所等における地域歯科保健活動を体験する。

＜研修内容＞乳幼児歯科健康診査（10カ月、1歳6カ月、3歳）を体験する。

＜症例数＞1 症例

(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解

【一般目標：GI0】

各種の医療法・歯科医師法及び関連する医療保険制度の目的やシステムを理解し、適切な歯科保険診療を実践する。

【到達目標：SB0s】

① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

＜研修内容＞講義、厚労省の集団指導を受講し、レポートを作成する。　　＜症例数＞1 症例

② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。

＜研修内容＞適切な保険診療を実践する。

③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。　　＜症例数＞1 症例（レポート）

Ⅲ. 多様な歯科医療ニーズへの対応（独自項目）

【一般目標：GI0】

患者の多様な歯科医療ニーズに対応できる診療能力と最新の医療技術(歯科材料の特性を含む)に関する知識と技能を修得する。

【到達目標：SB0s】

(1) 歯科保険収載技術に関する知識を習得する

① 舌接触補助床と舌圧検査に関する知識、技能を修得する。　　＜症例数＞1 症例

② 下顎運動機能（下顎運動測定と咀嚼能力測定）に関する知識と技能を修得する。

＜症例数＞1 症例

③ CAD/CAM による冠の作製に関する知識と技能を修得する。　　＜症例数＞1 症例

④ ファイバーポストを用いた支台築造に関する知識を修得する。　　＜症例数＞1 症例

⑤ 間接法によるシリコーン系軟質裏装材による下顎総義歯の裏装に関する知識を修得する。

＜症例数＞1 症例

⑥ 高強度硬質レジンブリッジを用いた補綴治療に関する知識と技能を修得する。

＜症例数＞1 症例

（2）近年の歯科医療の考え方について理解する

＜研修内容＞医科歯科医療センターの歯科医療各分野の指導歯科医の講義を受講し、レポートを作成する。＜症例数＞6 症例（レポート）

- ① 顎関節症の保存的療法
- ② 健康寿命からの10年を支える歯内療法
- ③ MIに基づくCR修復
- ④ バージョンアップ歯周治療
- ⑤ 口腔機能及び摂食嚥下機能の管理

（3）歯科医療各分野の指導歯科医が解説した効率的な診療を行うためのコツ（診療のコツ）を修得する。　　＜症例数＞13 症例（レポート）

歯内療法、歯冠修復、歯周治療、Cr-Br、局部床義歯、総義歯、口腔外科、歯科インプラント、障がい者歯科、小児歯科、歯科矯正、歯科放射線、歯科麻酔

（4）最新の歯科材料についての知識を修得する。

＜研修内容＞最新の歯科材料について歯科材料各社の研究部門の講師による講義を受講し、レポートを作成する。　　＜症例数＞6 症例（レポート）

- ① 印象材
- ② セメント
- ③ ボンディング材
- ④ Ni-Ti チタンファイル
- ⑤ コンポジットレジン
- ⑥ 感染予防用品

（5）支台歯形成スキルを修得する。

＜研修内容＞研修の前期と後期に開催する支台歯形成コンテストに参加して、支台歯形成のための知識と技能を修得する。　　＜症例数＞前期・後期各1 症例

（6）1年間の臨床研修の学修ポートフォリオを作成する。

＜研修内容＞1年間の臨床研修のゴールシート（目的・目標）を設定する。 ＜症例数＞1症例

＜研修内容＞学修ポートフォリオから凝縮ポートフォリオ（Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期）を作成する。

＜症例数＞各期1症例

（7）研修中間期に開催する研修歯科医の症例検討・報告会に参加し、同僚が発表した症例に対して質疑応答に加わる。

＜症例数＞8症例

（8）歯科医療技術のスキルアップ実習（独自項目）定員制・任意参加

① デンタルマイクロスコープによる歯内療法

② 歯周外科治療・縫合

③ 歯のホワイトニング

④ スポーツ歯科とマウスガードの製作

10. 症例数

（1）歯科医師臨床研修の到達目標を達成するため研修歯科医一人当たりに必要な症例数 **194症例**

（2）研修期間中に経験することを目標とする研修歯科医一人当たりの症例数 **254症例**

研修施設一覧

【管理型臨床研修施設】

研修施設番号	施設名	センター長
050020	朝日大学医科歯科医療センター	藤原 周

【協力型（Ⅱ）臨床研修施設】

研修施設番号	施設名	研修実施責任者
050021	朝日大学病院	笠井 唯克
170083	赤坂歯科医院	山口 正義

【研修協力施設】

研修施設番号	施設名	研修実施責任者
055008	岐阜市保健所	野村 隆之